

科目名	児童福祉臨床研究 [院]					単位	2.0
担当教員	井上 薫						
授業形態	講義	開講期間	随時	配当年次	1, 2	授業番号	8012

●授業のテーマ

児童福祉・家族援助分野におけるパートナーシップの志向の実践

●到達目標

児童福祉・家庭援助に必要なアセスメントとプランニングの方法を習得する。

●学習内容(授業概要)

児童福祉・家族援助に必要なアセスメントとプランニングの方法を習得する。児童福祉行政機関・児童福祉施設などにおける総合的な相談援助活動・生活支援に必要な実践理論・技法に関する基盤的知識を考究することを目的とする。

内容として、子ども家庭福祉の法的枠組、各種実践理論を取り上げる。特に、児童虐待相談や非行相談などの利用者との援助関係の形成・維持が困難な事例に対して、援助の枠組を設定し、利用者の主体性を引き出す方法について学ぶ。

具体的には、子どもと家族の見方・関与を引き出し、子どものための安全ネットワークを構築するためのパートナーシップ(協働)志向の実践手法群(安全パートナリング、ファミリーグループカンファレンス)の知識・技法を習得する。

●学習内容(授業計画)

≪前期≫

1. 児童虐待防止制度(児童虐待防止法、改正民法と親権制度、児童福祉法、児童相談所の役割等)の講義
2. 児童虐待発生の構造的理解(子ども、家族、サポートネット)についての演習
3. 安全パートナリング及びリゾリューションズ・アプローチの歴史的展望の講義
4. 実践原理と実践技法についての演習
5. インテーク階段、調査階段、アセスメント階段についての演習
6. ケース・プランニングについての演習
7. 三つの家の概要についての講義
8. 三つの家の方法についての演習
9. 三つの家の適用の事例研究についての演習
10. 三つの家の試行(ロールプレイ)
11. ファミリーグループカンファレンスとは何かの講義
12. ファミリーグループカンファレンスの準備についての演習(ロールプレイ)
13. ファミリーグループカンファレンスの実施についての演習(ロールプレイ)
14. ファミリーグループカンファレンスを適用した事例研究についての演習
15. 総括(受講者からの学びの体験報告と講師による総括)

●準備学習・事後学習の内容

準備学習として、テキストおよび配布資料の該当部分を読み、要約を作成しておくこと。事後学習として、毎回の学習内容のサマリーと感想を記録すること。

●成績評価方法・基準

授業時のミニレポート（40%）、期末試験（レポート試験 40%）、演習場面での技能の習得の程度（20%）によって総合的に評価する。

●テキスト（必携）

《No.1.》書籍名：「三つの家」を活用した子ども虐待のアセスメントとプランニング、著者名：ニキ・ウェルド、ソニア・パーカー、井上直美編著、井上薫ほか著、出版社：明石書店、販売先：井上研究室

●参考文献／その他

『子ども虐待防止のための家族支援ガイド』 井上直美・井上薫編著 明石書店

『安全のサインを求めて』 ターネル&エドワーズ著、白木孝二・井上薫・井上直美監訳 金剛出版

『児童虐待を認めない親への対応』 ターネル&エセックス著、井上薫・井上直美監訳 明石書店

●履修上の注意

授業は必ず出席のこと。テキストは必ず持参のこと。